

直観・対比による販売の観念

北京建築大学学生代表

見学日時：2019年5月29日（水）9:15-11:45

見学場所：積水ハウス総合住宅研究所

見学概要

日本訪問の二日目、私たちは積水ハウス総合住宅研究所の「納得工房」を見学した。同研究所は日本でも一流の住宅技術研究所であり、日本の住宅建築分野において名声を博している。研究所内に設けられた「納得工房」は、さまざまな住宅部材や、コンセプトを表現する空間モデルが展示されており、ユーザーが見学・体験することができる施設である。

「納得工房」の「納得」という言葉は、中国語で言うところの「理解、明白、領会」の意味で、同工房は人の住宅環境における様々な生活行為の体験をシミュレートそして統計することで、住宅の各種技術性能と人の生理・心理との因果関係を分析また研究している。そして多くの居住対象の生理・心理的体験を通じて、それらに適する普遍的意味を持つビッグデータを獲得することで住宅設計に科学的な依拠と合理的な解決方法を提供している。

建築を学ぶ学生である私たちは「納得工房」の見学において、沢山の素晴らしい設計を目の当たりにした。太陽光発電コーナーの「屋根と一体式のオリジナルソーラーパネル」は、クリーンエネルギー利用とともに、従来の屋根+パネルよりも重量が低減されることで、建築コスト削減のメリットがあること。構造コーナーでは、地震が多い日本では地震対策が重要であること、展示されていた「オリジナル制振フレーム」は、地震の揺れエネルギーを吸収して熱エネルギーに転化するオリジナルダンパーを鉄骨造の壁内部の鉄骨フレームに用いることで、地震の揺れによる建物の変形が低減されること。また、窓コーナーの「遮熱断熱複層ガラス」は、室外側のガラスの内側にコーティングされた特殊金属膜により、暑い日差し（日射熱）を抑え、紫外線対策にも効果があること、等々である。

感想

納得工房において私たちは、積水ハウスが力を入れている「UD(ユニバーサルデザイン)」のコンセプトの説明を受け、高齢者の身体機能の疑似体験を行った。高齢者体験は、利用者が将来的な身体機能について事前に体験することで、必要とする住宅の機能を把握し、住む人の身体的特徴に応じた住宅設計を行うことを目的としている。配色ガラスによる白内障の体験、スピーカーによる高齢者の聴覚の体験、装具をつけて「関節が動きにくい高齢者」を疑似体験し、段差移動時に有効な手すり位置を選んだり、車いすに乗って移動に適切な廊下幅の認識するなど、これらすべては「直観的」という言葉にまとめられる。

新たな断熱ガラスをアピールするために、異なるガラスを取り付けた部屋で実際に温度を体感する、空気環境を説明するために、人の一日の呼吸量を、飲料瓶を大量に並べて直観的に表現する、これらの体験・対比型の販売手法に秘められた制御変数の考え方について私たちは中学生の頃に学んでいるが、なぜ中国ではこれを活用する企業がほとんど存在しないのだろうか。

今回の活動に参加した団員の中には大学生创新创业コンテストに参加し良い成績を獲得した二名の学生がいる。上記のマーケティング戦略については建築関連知識以外に私たちが学べたものであり、とても感謝している。